

圧倒的なトレンドリサーチとマーケティングによりターゲットを設定、さまざまなマンションのモデルルームのインテリア監修に取り組み三井デザインテック。話題のプロジェクトを数多く率いるインテリアデザイン事業本部企画営業部長の平松健氏は、モデルルームの空間作りを通して、日本の暮らしの変化を見つめてきた。

「2000年代に入ってから、マンションの共用部に本が置かれたライブラリースペースが作られるようになりました。ところが最近働き方改革の影響もあり、ライブラリースペースがコワーキングスペースに置き換えられる例が増え、同様にモデルルームの設えにも変化が見られるように。個室が減り、リビングやダイニングとシームレスに繋がった、ワーキングスペース的な提案が増えています」

**フレキシブルな暮らしをデザインでより快適に実践**

今後湾岸エリアに誕生する、分譲住宅4145戸の大プロジェクト「HARUMI FLAG」のモデルルームにも、そんなシームレスなリビング＆ダイニング＆ワーキングスペースが見られる。シンプルコンフォートをテーマにプランされた空間は、家具や色使いでさりげなくゾーニングされながらも、全体が緩やかに繋がっている。

「以前ならリビングの一角に書斎の要素を取り入れた場合、デスクは壁に向かって配置することがト

MITSUI DESIGNTEC

## 時代を映すモデルルームの未来

時代のムードと憧れをインテリアとデザインで体現するマンションのモデルルーム。三井デザインテックが手掛けた最新の事例から今のトレンドを読み解いてみよう。

Photo\_HIROAKA HASHIMOTO(portrait) Text\_SHIYO YAMASHITA



### CASE 01 : HARUMI FLAG

在宅勤務もあるDINKSを想定したモデルルーム。天井高2.5mの開放感ある空間を生かし、ダイニング、リビング、ワーキングスペースを併存させたプラン。「扉とクロスを変化させることで区切りをつけ、単にシームレスというだけではない工夫をしています」と平松氏。ダイニングチェアは食事だけでなくコミュニケーションの場であることも想定してセレクト。www.31sumai.com/mfr/X1604/#!



## Takeshi Hiramatsu

平松 健

1965年生まれ。1990年に三井デザインテック株式会社に入社。リビングデザイン事業部を経て2017年よりインテリア事業本部企画営業部長。日本全国の様々なデベロッパーと協業し、これまでに担当したモデルルームの企画は500件以上を数える。  
[www.mitsui-designtec.co.jp/](http://www.mitsui-designtec.co.jp/)



レンドでしたが、今は「籠らない」のが時代の流れ。「ブラントン六本松」や「パークコート文京小石川ザタワー」の例からもわかる通り、リビングの考え方もかつての大型テレビを中心としたスタイルから大きく変わっています。今後の住空間は、家族が各々の過ごし方を優先しつつもコミュニケーションを深められるような方向に進化するのではないのでしょうか」

家具デザインの潮流も、個々のニーズに合わせてカスタマイズできるソファや、多様に使える大きなサイズのダイニングテーブルなど、平松氏の指摘する「籠らない」暮らしを志向したものになってきている。三井デザインテックが手掛けるモデルルームでは、そんなこれからの暮らしにふさわしい空間を体感できるはずだ。



### CASE 02 : ブラントン六本松

物件コンセプト「PLAY! LIFE? 人生、楽しんで?」をベースに、クリエイティブなセンスを持ち人生を楽しむ人々の暮らしを表現した一室。全体をPLAYING、RELAXING、HEALINGというゾーンに区切り、用途を限定せず自由に使うことができるように。卓球台を模したテーブル、大柄のヘリンボンの床など、冒険心に満ちたインテリアが楽しい。  
[www.nishitetsu-sumai.com/blanton/kusagae/](http://www.nishitetsu-sumai.com/blanton/kusagae/)



### CASE 03 : パークコート 文京小石川ザタワー

知的好奇心旺盛な50代の富裕層夫婦を想定した空間。「伝統を先進に」というテーマに基づき、日本の伝統文様である麻の葉を鉄で表現したアートを配した。ライブラリーは個室だが、寝室との間仕切りを部分的にオープンにすることで繋がりが感じられるものに。「家具は上質なシンプルモダン。クラシックな家具から完全にシフトしましたね」と平松氏。

